



日本テクノ・ラボ（株）
(札幌アンビシャス：3849)

**2023年3月期
決算補足説明資料**



May 15,2023

<https://www.ntl.co.jp/>

2023年3月期総括



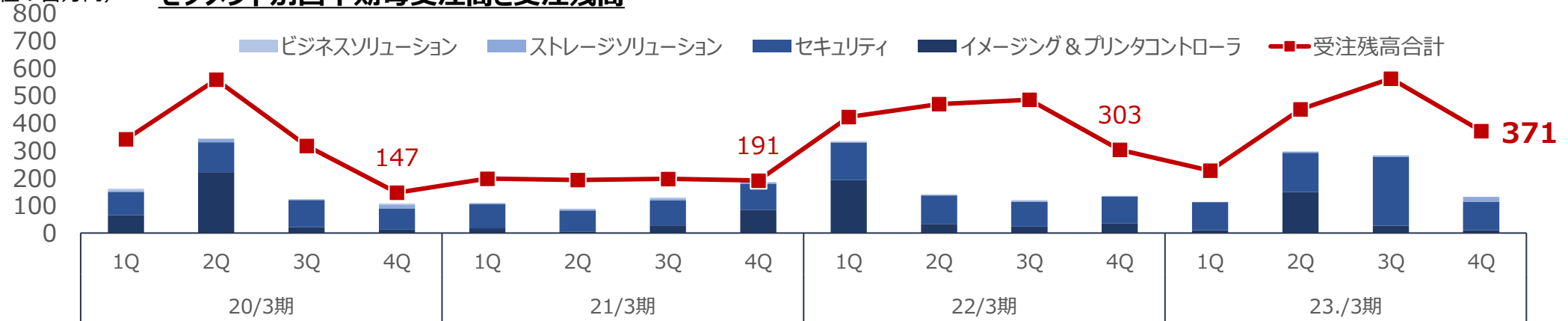
総括

売上高 **7.62**億円 前期比 **+21.6%** 受注残高 **3.7**億円

- イメージング&プリンタコントローラ事業、セキュリティ事業を中心に受注状況は活発。
- 一部製品の納品に期ズレが発生したこともあり受注残高は3.7億円と期末としては非常に高い水準。
- 期末配当は一株当たり15円。

(単位：百万円)

セグメント別四半期毎受注高と受注残高



損益計算書サマリー



主力であるイメージング & プリントコントローラ事業において、サプライチェーンの混乱による影響を最後まで吸収できず期ズレ案件が発生したことが響き、売上高、利益ともに計画には届かず。

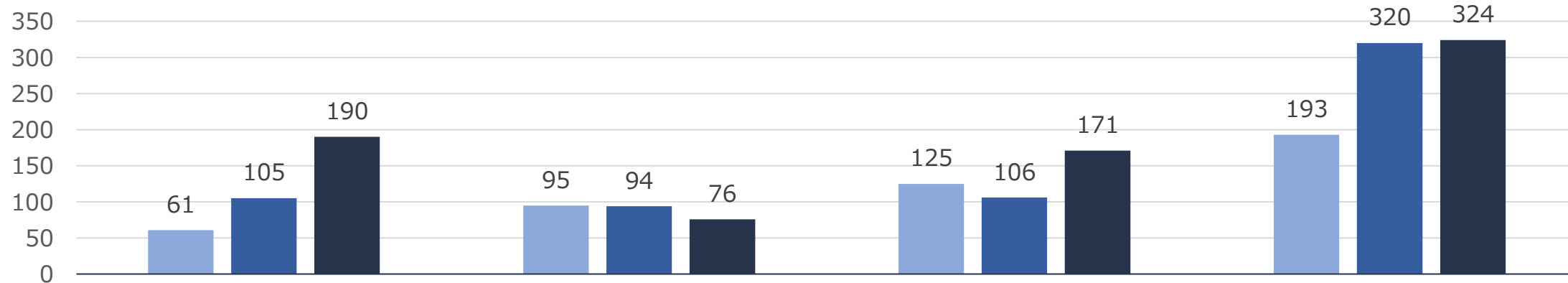
単位：百万円

	2023/3期 実績	2022/3期 実績	前年同期比較		2023/3期 期初計画
			増減額	増減率	
売上高	762	626	+135	+21.6%	900
売上総利益	430	321	+109	+29.9%	
営業利益	119	19	+99	+510.7%	200
経常利益	122	33	+89	+270.3%	200
当期純利益	86	22	+64	+292.3%	120

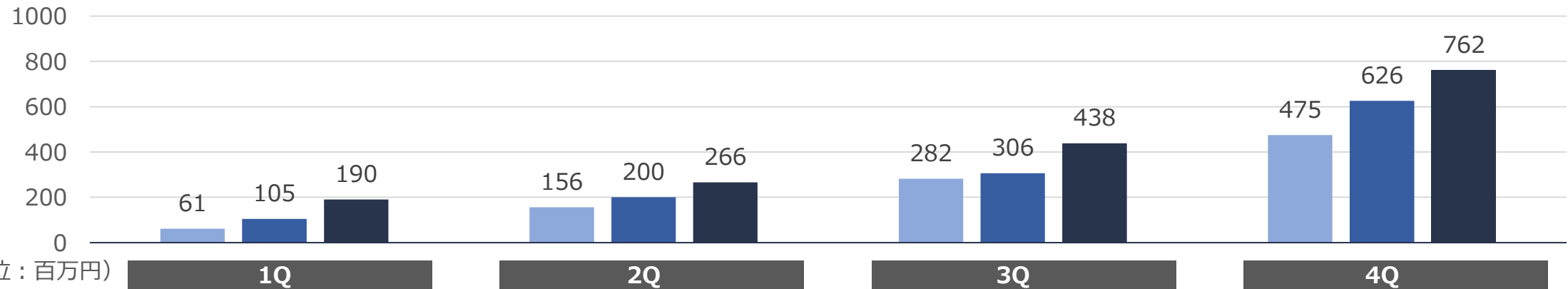
四半期業績推移 (売上高：過去3期比較)

四半期毎の売上高推移

■ 2021/3期 ■ 2022/3期 ■ 2023/3期



累計売上高推移

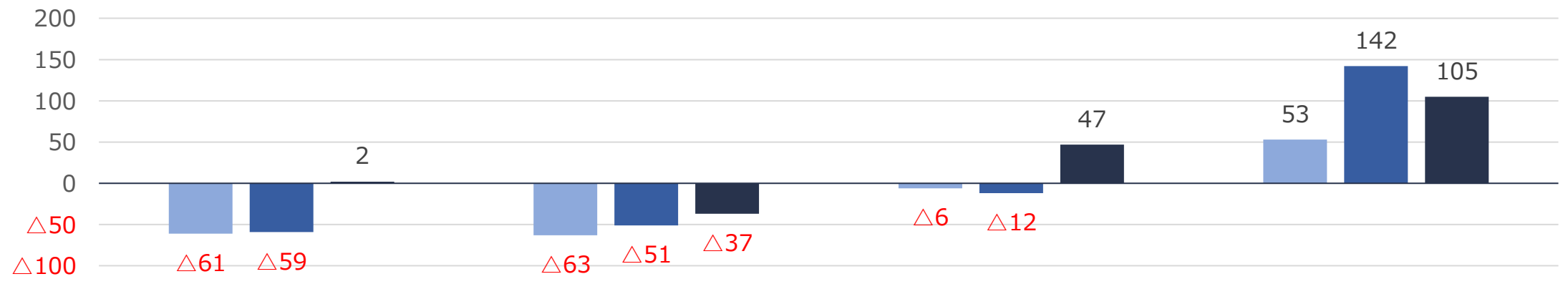


(単位：百万円)

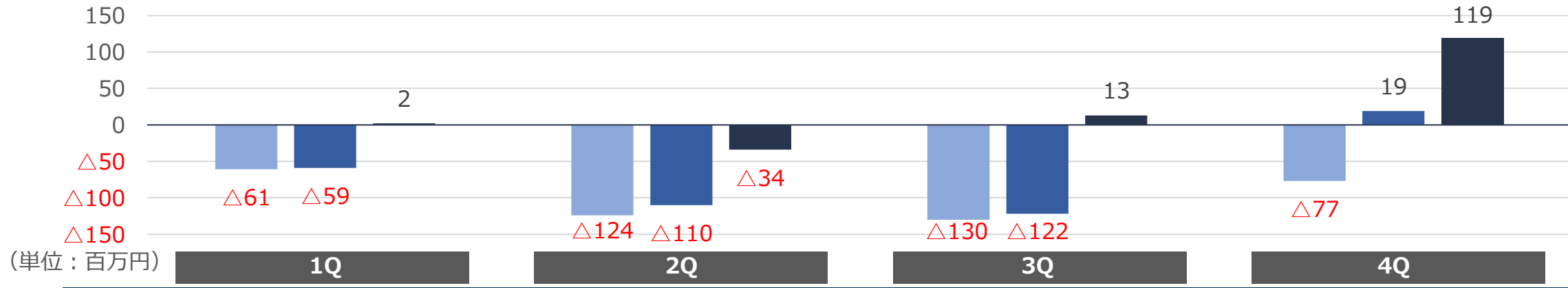
四半期業績推移 (営業利益：過去3期比較)

四半期毎の営業損益推移

■ 2021/3期 ■ 2022/3期 ■ 2023/3期



累計営業利益推移



事業領域：セグメント



セグメント別情報 売上高／セグメント利益

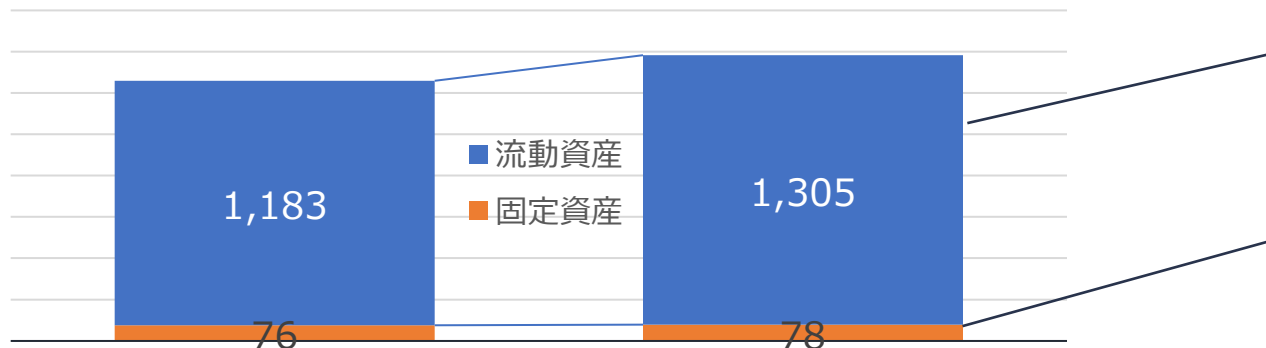


単位：百万円		2023/3期		2022/3期		前年同期比較	
		売上高	構成比	売上高	構成比	増減額	増減率
イメージング&プリンタコントローラ	売上高	248	32.6%	206	33.0%	+41	+20.1%
	セグメント利益	99	—	75	—	+24	+32.2%
セキュリティ	売上高	499	65.5%	395	63.1%	+104	+26.3%
	セグメント利益	177	—	75	—	+102	+136.9%
ストレージソリューション	売上高	11	1.5%	12	2.1%	△1	△10.3%
	セグメント利益	△ 34	—	△14	—	△19	—
ビジネスソリューション	売上高	3	0.4%	11	1.9%	△8	△74.5%
	セグメント利益	0	—	5	—	△5	△92.3%

貸借対照表

22/3期末

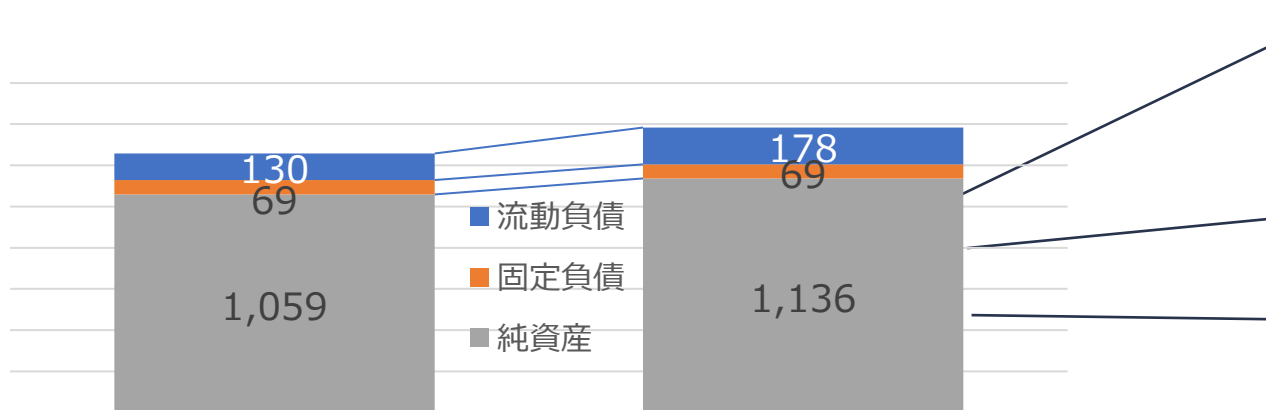
23/3期末



【主な増減要因】

現金及び預金：67百万円増加
 電子記録債権：55百万円増加
 商品及び製品：28百万円増加
 仕掛品：32百万円減少

保険積立金：6百万円増加
 有形固定資産：2百万円減少



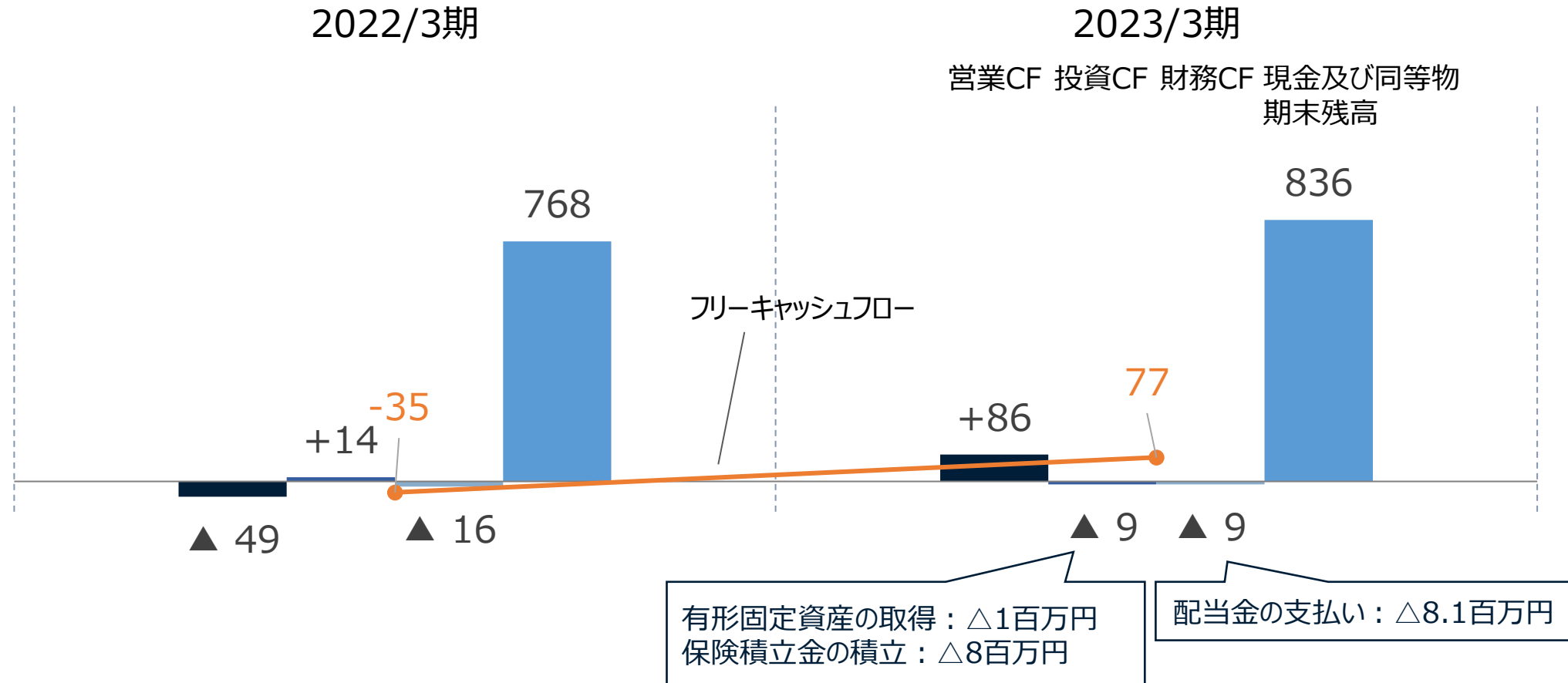
買掛金：8百万円減少
 未払法人税等：25百万円増加
 契約負債：18百万円増加
 未払金：10百万円増加

繰延税金負債：1百万円減少

利益剰余金：78百万円増加

単位：百万円

キャッシュフロー計算書





2024年3月期 事業計画



2023年3月期通期業績予想



- 半導体不足によるサプライチェーンの混乱も解消の目途が立ち、徐々に正常化へ。
- プリントコントローラ事業、セキュリティ事業に加え、ストレージ事業も本格的な拡販体制に入る。

	2024/3期 予想	2023/3期 実績	前年同期比較	
			増減額	増減率
売上高	950	762	+187	+24.6%
営業利益	220	119	+100	+84.6%
経常利益	220	122	+97	+79.6%
当期純利益	130	86	+43	+50.2%

中期経営計画 (2022/9/20公表) との差異について

半導体不足に起因するサプライチェーンの混乱が想定を上回り、イメージング&プリンタコントローラ事業主力製品「Mistral」の出荷が半年から1年後ろ倒しとなったことから、今期（2024年3月期）については当初計画よりも低めの計画となりました。

中長期での事業方針に変更はなく、現時点で2025年3月期、2026年3月期の計画値に変更はありません。

	2024年3月期 今回公表値	当初計画 2022/9/20公表値	前年同期比較	
			増減額	増減率
売上高	950	1,050	△100	△9.5%
営業利益	220	250	△30	△12.0%
経常利益	220	250	△30	△12.0%
当期純利益	130	140	△10	△7.1%

イメージング & プリンタコントローラ事業



受注残を早期に納品し、更なる受注獲得を目指す。

ニューノーマルの生活様式が浸透する中でパッケージデザイン等における多様性、短納期のニーズが拡大。高機能なインクジェットプリンタコントローラへの期待が高まっている。

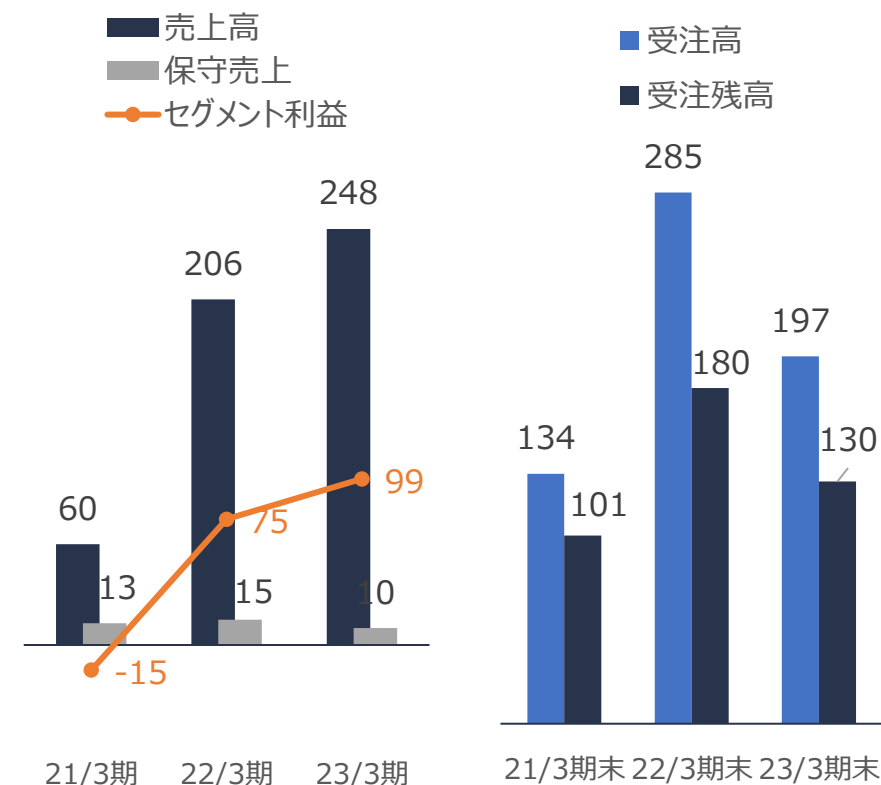
一方、半導体需給のひっ迫は収束に向かいつつあるものの受注から納品までの期間は長期化が継続すると想定。

受注残高1.3億円を着実に納品完了するとともに、新規案件の獲得を推進。

コロナ前の業績水準の回復と同時に、顧客ニーズに応えるR&Dの継続により競合他社との技術差を拡大。

セグメント別業績推移

単位：百万円



ストレージソリューション事業



ストレージ統合管理サーバ「Mnemos」の国内完成車メーカー採用が決定。20年に亘る取り組みが収益化フェーズ入り。

脱炭素社会の動きの一環から、省電力なビッグデータ保存用途として、大手製造業、医療現場、医療研究機関等からの引合いが増加中。

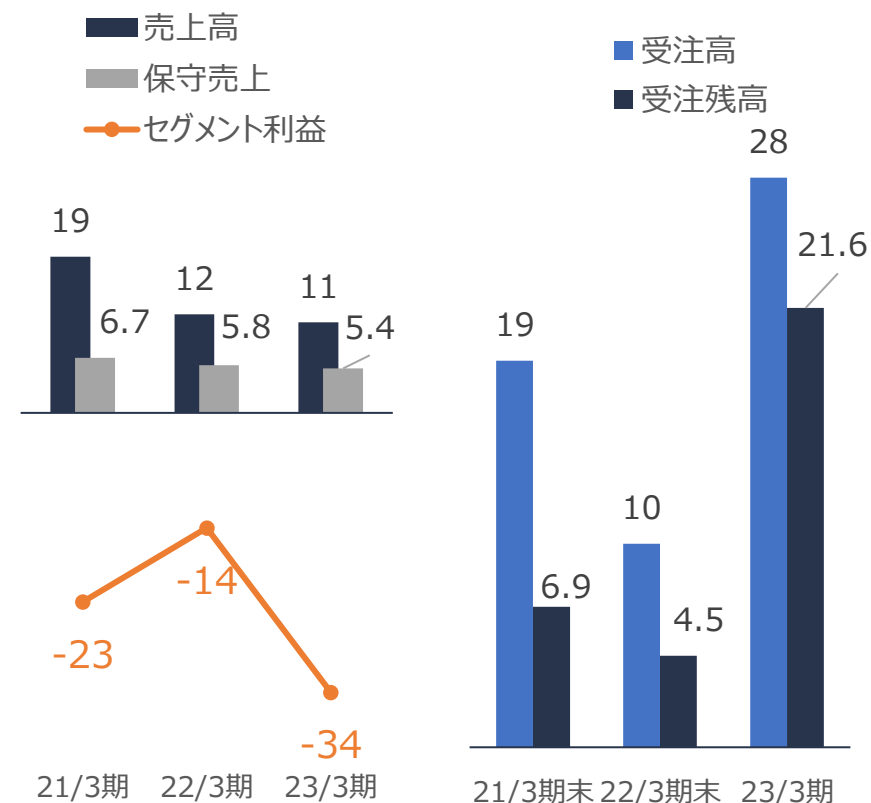
受注残高は、大手国内完成車メーカー向けを中心には21百万円。

更なる受注獲得に向け営業力、プロモーションを強化。

顧客ニーズに合うソリューションの提供により黒字化を目指す。

セグメント別業績推移

単位：百万円



Mnemos NEXT

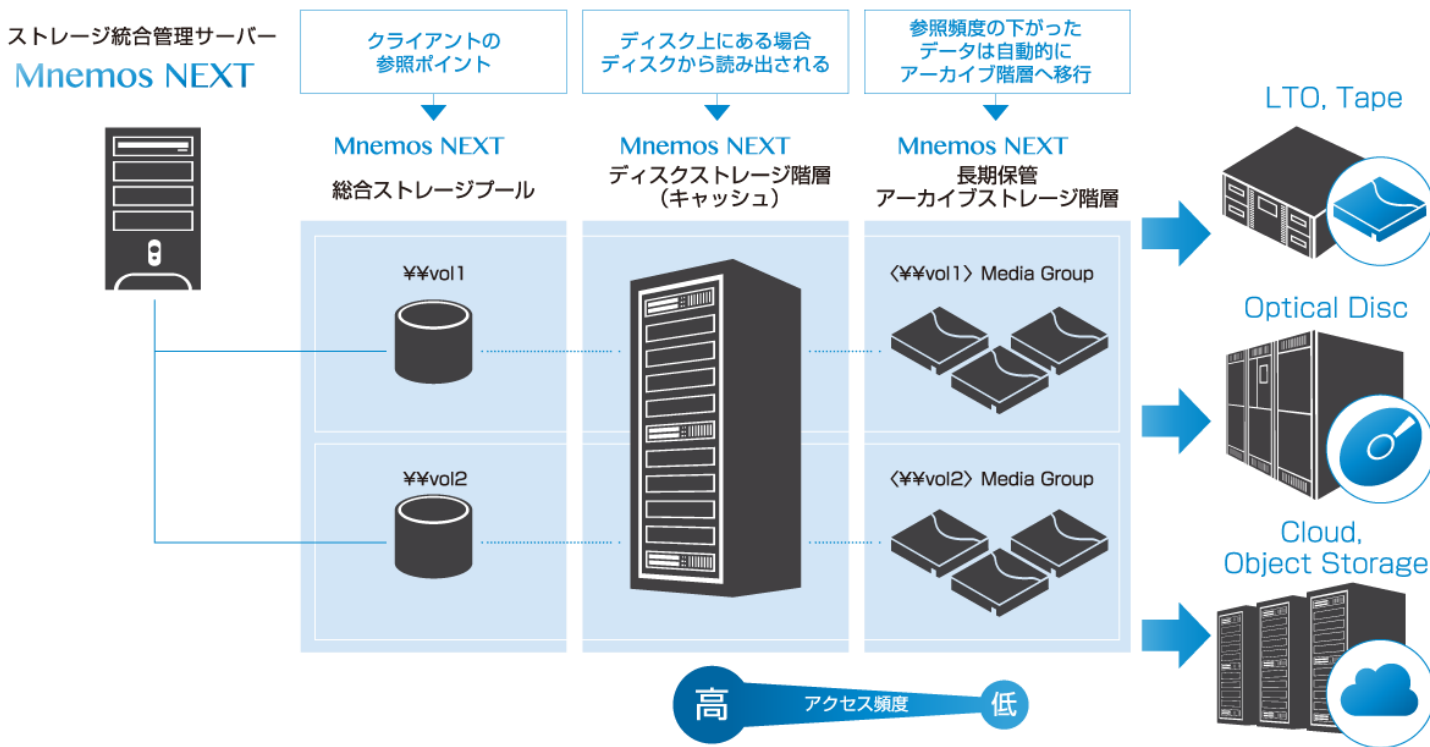


アクセス頻度に応じて、データを、メモリ、ハードディスク、メディア（LTOテープetc.）に**自動で振り分け、保存・呼出**を行う。

ユーザは全てのデータがメモリ上に保存されているのと同じ操作感でデータにアクセスが可能。

一方で、アクセス頻度の低いデータはメディアに保存され、アクセス時以外は通電されないため、**電力消費量や熱の発生量を抑えることができ、低コストであり、SDGsにも貢献度の大きい仕組み**となっている。

Mnemos NEXT が実現するストレージ統合



セキュリティ事業



SPSE、OSCE、FIREDIPPERが好調。

【SPSE】

好調！セキュリティ面（情報管理）に加え「脱炭素」「ペーパーレス」「省電力」の観点から引合いが増加中。総務省での採用を引き金に地方自治体等の導入が進んでおり、各省庁、地方自治体へ展開を継続。

【OSCE】

好調！大学の医学部、看護学部、及び看護学校からの引合い、受注増加。新たな成長ドライバーとなる可能性大。

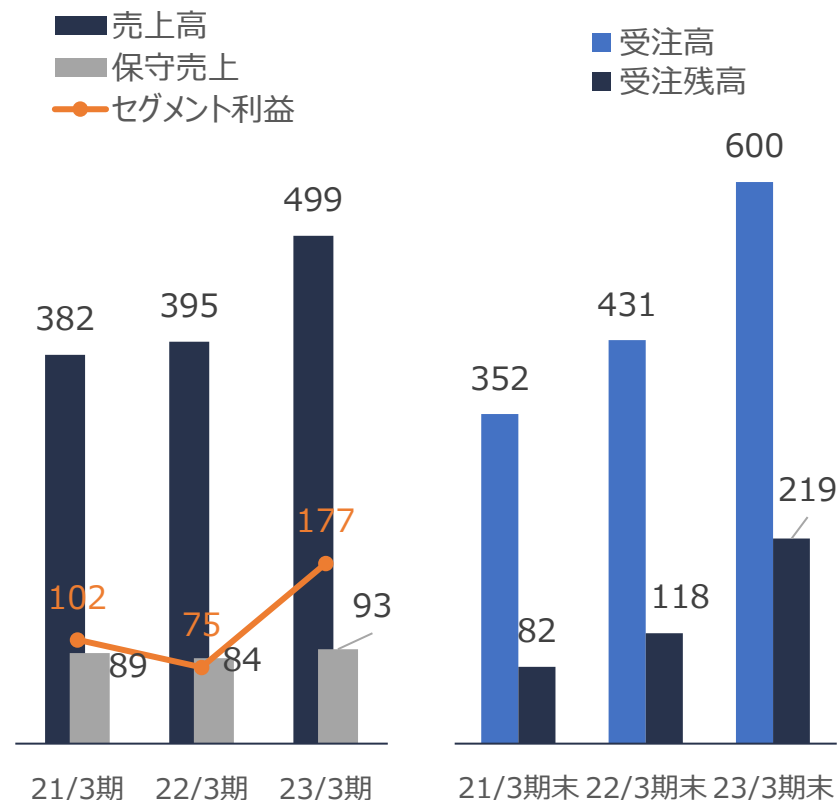
【FIREDIPPER】

好調！空港、発電所などの大型案件多数。原子力発電所のセキュリティ強化も追い風。AIを組込んだ監視カメラシステムへの引合いが増加。

強度なセキュリティに対応するためオンプレミス型をメインに新たな製品の開発にも積極的に取り組む。

セグメント別業績推移

単位：百万円



中期成長イメージ



少数精鋭

Only Oneの技術

セキュリティ 情報

セキュリティ 映像

セキュリティ 教育映像

ストレージソリューション

イメージング&プリンタコントローラ

ビジネスソリューション



<https://www.ntl.co.jp/>

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。又、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。又、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。